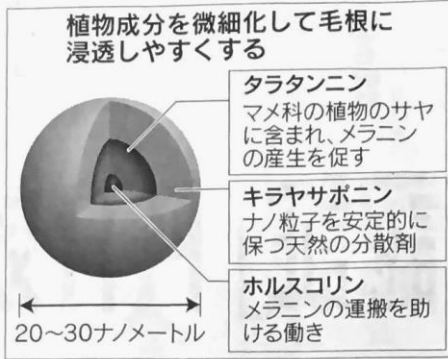


毛根に浸透しやすく

N-I-Lが白髪ケア製品

メラニン産出促す成分



アンチエイジング関連のスタートアップ、N-I-L(エヌアイエル、神奈川県二宮町)は、植物由来の成分による白髪ケア製品を開発した。髪を黒くするのにつながるメラニン色素を生み出しやすくする成分を、独自の微細化技術で毛根に浸透しやすくした。頭皮や頭髪のケア商品としてヘアサロンなどで販売していく。

独自の微細化技術活用



ネット通販のほか、ヘアサロンなどでの販売も計画する

毛髪の色には色素細胞が関係している。N-I-Lは南米由来のマメ科の植物に含まれるポリフェノール一種である「タラタンニン」という成分に着目。筑波大学の磯田博子教授との共同研究により、タラタンニンにメラニン色素を生み出しやすくしたり、メラニン細胞の外に色素を速やかに移したりする効果を確認したという。

さらに、N-I-Lは新工

ネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の支援を受けて微細化技術を開発した。タラタンニンを毛根に染み込みやすくする「キラヤサポニン」など複数の植物成分を、直径20ナノメートル(ナノは10億分の1)〜30ナノメートルの微細粒子に加工できる。

この微細粒子は水分と混ぜても安定した状態を保てるため、頭皮ケア商品にも利用できるという。

さらに、確立した微細化技術を活用すれば、目的に応じて粒子に別の機能性素材などを加えることもできるとしている。

N-I-Lは開発した技術などをもとにアンチエイジングブランドとして「スーナバイオショット」を立ち上げた。白髪の手入れができるという「スカルプエッセンス」(8640円)のほか、「シャンプー」と「トリートメント」(各3240円)をそろえる。40代以上の男女をターゲットとしている。

当面はネット通販を中心に展開。2019年にはヘアサロンや雑貨店などでの取り扱いも始める計画で、1億円の売り上げを目指す。

N-I-Lは15年の設立。68歳の佐藤幸蔵社長は富士フィルムの技術者出身で、執行役員なども務めた。佐藤氏を含めた3人の創業メンバーは全員が富士フィルム出身。17年にはベンチャーキャピタルなどから1億6千万円を調達している。

今後はスーナバイオショットに使っている微細化技術などを応用し、化粧品だけでなく機能性表示食品や医薬品などの事業化も目指していきたい考えだ。

(柴田奈々)